総務省 総合通信基盤局 電気通信事業部
電気通信技術システム課長

荻原 直彦

Naohiko Ogihara

平成　4年　4月　郵政省採用
　　同　電気通信局電波部移動通信課
平成　7年　6月　建設省道路局道路環境課情報システム係長
平成　9年　7月　郵政省通信政策局技術政策課開発係長
平成 10年　6月　　同　通信政策局技術政策課専門職
平成 12年　7月　　同　電気通信局電気通信事業部
　　電気通信技術システム課課長補佐
平成 13年　1月　総務省総合通信基盤局電気通信事業部
　　電気通信技術システム課番号企画室課長補佐
平成 15年　8月　北九州市産業学術振興局産業振興部
　　新産業振興課長
平成 17年　8月　総務省総合通信基盤局電気通信事業部
　　電気通信技術システム課課長補佐
平成 19年　7月　　同　情報通信政策局通信規格課
　　標準化推進官
平成 21年　7月　　同　情報流通行政局地域放送課
　　技術企画官
平成 21年　9月　　同　情報流通行政局衛星・地域放送課
　　技術企画官
平成 22年　7月　　同　総合通信基盤局電波部電波政策課
　　電波利用料企画室長
平成 25年　6月　　同　情報通信国際戦略局技術政策課
　　研究推進室長
平成 28年　7月　現職

ネットワークの今と将来への成長を支える

日々の生活を支えるICT

当たり前のように日常生活の様々な場面で利用しているICT。それを支えているのが情報通信ネットワークです。情報通信ネットワークの社会インフラとしての重要性はますます高まってきています。

電気や水道と同じように当たり前にそこにある社会インフラとして、普段はあまり意識されることはないかもしれませんが、我が国の情報通信ネットワークは最先端の技術を活用して日々進化することにより、世界最高レベルの通信環境を実現しています。

総務省では、普段はもちろんのこと、自然災害などの非常事態においても、誰もがICTを安定的に利用できる環境を実現し、そして、そのことを通じて将来にわたって豊かで安心な日常生活の実現に貢献していくことを目指して、自治体や企業、大学をはじめ多くの立場の方々と協力し、様々な知恵を集めて情報通信ネットワークの更なる高度化に向けた取り組みを進めています。

非常時にも安心と安全を

社会インフラとして私たちの日常生活を支えている情報通信ネットワークですが、ひとたび災害等が発生して機能が停止してしまうと、あらゆる経済活動や社会生活が機能不全に陥ってしまいます。また、被災地では正確な情報をいかに早く、いかに広く共有できるかということが、被害を最小限に食い止めるために重要になりますが、その手段も失われてしまうことになります。

もちろん自然災害は避けることが出来るものではありませんが、将来、万が一災害が起きたときには、被害や影響を最小限にとどめていくことが重要です。そのためには、過去に経験した災害時の対応やその反省の一つ一つを最大限に生かして、将来に向けて備えを万全にしていくことが必要です。これまでの数々の災害の経験を生かして、電気通信事業者では、災害時用の予備のネットワーク機器の高度化や配備、さらにはそれらを実際に有効に活用できるようにするための訓練に積極的に取り組んでいます。

総務省では、こうした取り組みを後押しするため、電気通信事業者や防災関係機関等と連携し、技術開発プロジェクトの推進や技術基準等の制度整備を通じて、情報通信ネットワークの安全・信頼性の向上に取り組んでいます。

若手職員の声

総務省 総合通信基盤局 電気通信事業部
電気通信技術システム課　寺田 彩華（平成28年入省）

電気通信技術システム課は、重要な社会インフラである情報通信ネットワークの安全・信頼性を確保する業務を担っており、私はその中でも、技術基準等の環境整備を行っております。この部署の業務は技術的な話が多く、電気通信事業者の技術担当部門の方々と打合せをすることがほとんどです。技術的知見が求められることも多くあり、理系職員の重要性を日々感じております。

荻原課長は、課内全体に細やかに気を配り、お忙しい中でも若手職員の意見にも耳を傾け、丁寧に対応してくださいます。飲み会等でも課職員と積極的にコミュニケーションを図ってくださり、そんな課長の明るい雰囲気の下、非常に風通しの良い環境で働くことができています。やりがいのある仕事と、尊敬できる先輩方に恵まれた環境に感謝しつつ、日々業務に励んでいきたいと思います。

将来に向けて先手を打つ

今や私たちの生活にすっかり浸透したスマートフォンですが、家電量販店等の店先で見かけるようになったのはわずか10年ほど前です。これからは車や電化製品はもちろん、身の周りの様々なものが情報通信ネットワークにつながり、さらに新しい便利なICTサービスが利用されるようになると考えられます。

このような将来のICTを支えていくためには、情報通信ネットワークはさらに高度で安定した社会インフラとして発展していくことが不可欠です。

そのためには、将来のICTサービスやそれによって実現されるであろう私たちの未来の生活に考えを巡らせ、早め早めに課題を見つけて手を打っていくことが必要です。このように、将来に向けた課題を早い段階で関係機関と共有して、道なきところに道をつくるように新しいビジョンや政策として具体化し世の中に提案していくことも、私たち総務省の重要な仕事です。

大事だと思うこと

これまで、変化の激しい情報通信に関わる仕事に携わる中で、私自身が一番大事であると思うことは、常に一人の利用者の立場に立ち返ってものごとを考える「ものさし」を持つことだと思います。

ICTのような最先端の技術に目を向けていると、ついつい見失いそうになるのですが、世の中には実に様々な考えや生活があります。今、社会に本当に求められていることは何なのか、常に自分自身に問いかけることがとても大切であると感じています。

私は北九州市役所で２年間働く機会をいただきましたが、そのときに市民の方々と現場で顔を突き合わせて一緒になって仕事をする貴重な経験をさせていただきました。総務省のICT政策を外から眺めたとき、社会全体の中での立ち位置や、市民の方々の様々な考えを肌で感じることができました。このときの経験は自分の「ものさし」が形作られる中で大きな影響があったと感じています。また、最近はワークライフバランスという言葉を耳にする機会が増えました。日常生活を大事にすることは、自分自身や自分の仕事を客観的に捉える「ものさし」を育てる上でとても重要なことだと感じています。

これから社会に飛び出そうとしている皆様には、いつでもそこに立ち返られるような「ものさし」を持って、そしてそれを素直に仕事に活かしていくような感覚を大事にしていただきたいと思っています。技術系の学生の方々は浅かれ深かれ専門分野を持っていると思いますが、情報通信ネットワークはあらゆる生活や経済活動のインフラです。総務省では専門分野を超えて実に様々な仕事に出会うことができます。

今と未来の生活を支えるICT。自分たちの手で成長を支えていきませんか。意欲のある方と一緒に仕事が出来るのを楽しみにしています。

Project　ICTが社会インフラとしての役割を果たすために

私が入省したのは平成４年ですが、携帯電話のデジタル方式の導入に向けて通信業界が盛り上がっている時期でした。当時、携帯電話を持っている人は私の周囲でもまだ珍しく注目の的でした。その10年後には１人１台に、そして今では老若男女、ふと通勤途中に電車の中を見渡すと、スマートフォンを利用していない人がすっかり少数派になっています。私が入省した頃には誰も予想できていなかったことです。

では今後10年の間に何が起きるのでしょうか。間違いなく言えることは、ますますICTサービスが日常生活に溶け込んで、情報通信ネットワークの重要性は今よりも飛躍的に高まっているということだと思います。

私たちは、情報通信ネットワークがあらゆる人の生活を支えていることを強く意識して、普段の生活はもちろん、災害時等でもICTがその機能を発揮できるように、また、将来にわたってICTがあらゆる人々の生活に役立つように、関係機関の方々と連携して技術開発や技術基準等の制度整備など、ICTの利用、発展の環境づくりに取り組んでいます。